



河内小だより

〒671-1664

たつの市立河内小学校

たつの市揖保川町金剛山604

TEL 0791-72-2129

FAX 0791-72-6213

ともに学び合い、心身ともに健康でやさしい河内っ子

河内小学校 HP 【 <https://kochisyo.tatsuno.ed.jp> 】



全国学力・学習状況調査の結果の概要をお知らせします

今年の4月17日に全国一斉に6年生が実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。この度、本校の分析結果をとりまとめましたので、保護者の皆様にその概要をお知らせいたします。

(注) この調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること、本校の6年生は少人数でデータ数が少ないため、単純な比較をするには難しい面があります。

1 国語科の結果について

- ほとんどの問題の正答率が、県や国の平均を上回っていた。本校の児童は基礎的な内容については、授業や朝の学習、家庭学習等の積み重ねにより概ね習得できているといえる。
- 学習指導要領の内容について全国平均と比較すると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」が高く、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること」が低かった。
- 問題文とたくさんある資料の中から適切な資料を読んで、適切なものを選択する問題があまりできていない。問題文が短いと正しい答えを選択することができているが、長いとできていない。
- 話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができている。
- 漢字の書き取りについては、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しくつかうことができている。

2 算数科の結果について

- 表やグラフ、目もりを読んだり、面積を求める計算や分数の計算をしたりするなど、基礎的な学力は比較的身につけている。
- 五角形の面積を正確に求めることができることから、指導をしっかりとすることで学力を上げることにつながることが分かる。
- 台形の性質や定義を覚えていなかったり、角の大きさが理解できていなかったりしていることから、図形認識や空間感覚に苦手意識を持っている児童がいることが考えられる。
- 文章問題において、しっかりと読み取れていないことから、答えを求めるために必要な情報が選べていない。
- 割合の増量や減量のような、基準の何倍になるかの問題になると、理解することが難しい。



3 理科の結果について

- 生命や地球を柱とする問題の正答率が高かった。結果を基に考察するということが身に付いており、普段の活動内容が活かされていると考えられる。
- 植物の発芽の条件や花のつくりと実のでき方について、観察・実験を通して理解している。
- 鉄が磁石に引き付けられる性質を持つことは理解しているが、「鉄しか電気を通さない」と誤って考えている児童が見られる。

- 磁力についての問題の意図や答え方が理解できず、実際に実験したときの巻き数を記入していると考えられる。
コイルの巻き数によって磁力が変わることの知識が定着していない。
- 水は温まると体積が増えることを考えるのに、沸騰の言葉の意味を理解していない。あるいは、水蒸気と湯気の区別ができていない。

4 学習環境や生活習慣に関する児童生徒質問紙調査について

○自己有用感・自尊感情・思いやり・規範意識が高い

「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」という回答が高いことから、児童自身が周囲から認められた環境で過ごしていることが分かる。そのため、「自分にはよいところがある」と答えた児童が比較的多く、自尊感情の高さがうかがえる。このことから、学校・家庭・地域において温かい関わりの中で成長していることが推察される。

「人が困っているときは、進んで助けていますか」の回答が高いことから、いつも周りに関心を持ち、思いやりをもって他者と接することができていることが分かる。また、少人数の中で育ってきたことにより、学級や地区の中で助け合う感覚が自然に身についているとも考えられる。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」や「友達関係に満足していますか」を肯定する回答も高いことから、よい人間関係の中で楽しく学校生活を送っていることがうかがえる。

「いじめは、どんなことがあってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童が多いことから、児童の規範意識は高く、善悪の判断と正しい行動がとれている。これは、よりよい道徳的な価値が身についているからであると考えられる。

○小学校での学びの土台を作る基本的生活習慣の確立

児童は比較的、「早寝・早起き・朝ご飯」の基本的な生活習慣が身についている。家庭での子育て環境や家族の関係性が安定している地域でもあることから、児童の生活リズムは保障されている。

5 考察と今後の取り組み

- 国語については、文章が長くなったときに話の中心や必要な情報が正確に読み取れていないことが課題となっている。文章を読み取る力を養うために、新聞等を使い、いくつかの情報の中から必要なものを読み取ったり、文章にまとめたりする機会を増やすことが効果的であると考えられる。朝の学習を活用するなどして、積み上げていくことができるとよい。
- 算数については、図形認識や空間認識に課題が見られるため、実物やデジタル機器を普段から意識して使い、感覚として捉えられるようにしていくことが必要であると考えられる。こつこつと頑張ることで基礎的な学力は身につけているが、算数に苦手意識を持っている児童が多いため、達成感を持たせることができる授業づくりに努める。
- 理科については、自分で問いを立てる経験の不足が考えられるため、身近な不思議から疑問や課題を見つけさせ、課題解決に向けての方法を考えて実行する体験を積み上げたい。
- 自尊感情・規範意識・基本的な生活習慣など、児童は前向きな回答をしている。今後も、学習指導と生活指導を両輪として、よりよい学級経営を進める中で子どもたちを成長へと導きたい。
- 生活の中でＩＣＴ機器に触れる機会が多いが、家庭学習につながる利用はあまり見られない。そこで、高学年を中心にＡＩドリルやタブレットを用いる宿題を出すことで、家庭においてもＩＣＴ機器を使用した学びの習慣化を図る。

*個人の結果については、すでに６年生の児童に渡しています。

*本年度は、国語科と算数科、学習環境や生活習慣に関する質問紙に加えて、理科の調査がおこなわれました。

